

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33番地108		
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりご自分の家だと思っていただき、利用者・職員とともに楽しんで生活ができる場をつくり、「生きる喜び」「生きる意欲」がしぼまない笑顔あふれるホームづくりをめざしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地で生活に便利な場所に立地したホームで、明るい居室、広い中庭等環境がよく家庭的な雰囲気である。ご家族の訪問も多く、医療連携もよく出来ているので安心して生活されている。入居者の生活の質の向上をめざして、目標達成計画をたて、職員一同で笑顔あふれるホームづくりにむけて努力されている様子がうかがわれました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成23年2月24日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ya		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一年に一度、定期的に理念について話し合い意識付けをしています	全職員で理念を再確認する機会を設けて話し合い、その理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事の参加や学校行事にも参加しています	代表者の町内にホームがあるので、日常的に地域の一員としての交流がある。また昨年度より地域の中学校の体験学習(チャレンジワーク)を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事に参加しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議を通して、ホームの行事や課題・内容を話し合っています	ご家族や町内会長の参加で開催され、ホームでのJ行事や課題等の話し合いがなされ、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。市職員・地域包括の方に参加していただくよう努力されていました。	先日地域包括に情報提供をされたようですので、これを機会に参加を促し、報告や話し合いを行い、サービスの向上に活かしてください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に報告しています	市担当者とは定期的に報告等をして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、定義等を理解し意識を高めています	身体拘束をしないケアの勉強会を行い、全ての職員が定義等も正しく理解し、ケアの実践に取り組まれていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、職員同士で話し合いや声かけなどして意識を高めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行い、職員の意識を高めるとともに、家族からの質問があれば活用できるように支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得をしていただけるよう十分な説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や面会簿に意見や要望を聞き、指導いただいた点を話し合い改善できるよう努めています	電話連絡や家族の方もよく訪問されるようなので、その際に意見や要望をきいて、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や定期的な個別面談を行い、職員の意見を取り入れたり、話し合っています	代表者や管理者は職員が話やすいように定期的な個別面談の機会を設けて意見や提案を聞き、運営に反映させている。ホーム長がよく意見等を聞かれて支えておられるようです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や現場に出て状況を把握し話し合いの場を設けています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットで勉強会を行ったり、外部研修への参加や業務中の指導を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加して現場で反映させたり、意見交換を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との個別のコミュニケーションをとる時間を設け、安心して過ごしていただける様努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暮らしの情報を取り入れ、御家族の思いに添えるようしっかり話し合う機会をもつようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時にしっかり話を聞き、担当のケアマネなどと連絡をとることで、サービスの必要性を話し合い対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や作業を一緒に行い、話し合うことで信頼関係を築くようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで近日の報告をし、必要ときは改めて時間を設け信頼関係を深めるよう努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の趣味や生活リズムを尊重し、なじみの方の面会や手紙・連絡が継続できるよう努めています	家族の訪問や友人の面会・文通の援助で馴染の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士の関係を把握し、共通の会話や作業を行うことで関わり合いを持つよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も自宅等への電話や手紙で現状を尋ねるなどをし相談に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面談やコミュニケーションを通して得られた情報や意向を把握できるように努めています	日頃のかかわりの中での様子やコミュニケーションから把握すること、またご家族にも相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や担当ケアマネを通して、細かい情報を得たり、暮らしの情報を記入していただき把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日のリズムを把握し、コミュニケーション時の表情を読み取り現状を知ることができるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見も踏まえ、全職員から話を聞き、カンファレンスを開き適時現状に即して計画を作成しています	課題やケアのあり方については本人、家族から思いや意見を聞き、かかわりを持っている全職員と話し合い、意見等を反映して現状に応じた計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日チェック表に実践の可否を記載し、モニタリングで話し合いをしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	八百屋やパン屋などの宅配サービス・往診を利用しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の訪問理容や演奏会を行っていただいたり、四季折々の花や環境を楽しむことができる様に努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医がある場合は今までの関係を大切にしながら支援をし、それ以外の場合はホームのかかりつけ医に週二回往診を受けれるよう支援しています	本人、家族の希望されるかかりつけ医との関係を大切にされています。内科、心療内科の往診もあり、医師同士の連携もよく出来ているようです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診ファイルを作成し、状態を適切に伝えるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護連絡表を作成したり訪問することで情報を共有できるよう努めています。退院時にも電話連絡を行い情報の共有に努めています		
33	(12) 丘や	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な勉強会と、家族やかかりつけ医との十分な話し合いを行い、対応を全職員で検討しています	看取りの経験もあり、入居時から重度化や終末期に向けた支援についての話し合いが出来る。またその思いに添えるよう全職員で勉強会をしている。	看取りについては本人、家族からの思いがあるようにお聞きしました。職員の技術面だけでなく精神的なサポート、医療連携等勉強会を行い、思いに添えるような取り組みをしてください。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の参加や、事例検討会を行い、意識や技術の向上に努めています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っています	年に2回の避難訓練をしているが、今回夜勤帯の設定でされたようです。なかなか大変でしたが近所役の方の助けで無事避難出来たので、地域との協力体制の必要性を感じられた様です。今年度にスプリンクラー設置完了予定。	利用者が混乱なく避難できる方法を全職員が意識づけ、今後とも地域との協力体制を築きながら災害対策に取り組んでください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活習慣を全職員が把握し、本人が自己決定できるよう心がけています。特に、本人の尊厳とプライバシーを守るように配慮しています	トイレ誘導等人前での声かけには特に気をつけています。危険な事以外は本人の言われることを否定しない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がけのときなど、職員から決め付けず自己決定できるように声かけをしています。買い物や食事など本人の希望に沿えるよう対応しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や起床時間などは、本人の希望に合わせて支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段は本人の希望の衣類などを聞きながら支援し、外出時などはおしゃれができるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を取り入れたり、行事やイベントを通して本人と一緒に準備や料理ができるよう支援しています	季節の物や好みのもを取り入れたり、畑の野菜を収穫して、一緒に準備や食事を楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好物を取り入れ、本人に合わせた調理方法や工夫を行い、本人の状態に応じて支援しています。変化があれば、その都度話し合います		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、一人ひとりに適したケアを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや行動や表情を読み取り、本人に合わせ、トイレで排泄ができるよう支援しています。オシメやパンツ等は状態に合わせて本人に合ったものを支援しています	一人ひとりの排泄パターンの把握は出来ており、出来るだけトイレでの排泄ができるように支援されている。立位が無理な方も日中は2人対応でトイレでの排泄を支援されていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、水分補給や運動を取り入れています。また、便秘が激しいときは、速やかにかかりつけ医に相談しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、その日の状態や希望に合わせて声かけや入浴支援を行っています	本人のその日の希望を確認しながら入浴していただいているが、週3回は家族の希望もあり入浴してもらうように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠時間やパターンを把握し眠れるよう支援しています。不眠のときは日中の活動を増やすなど工夫しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との話し合いを設け情報を共有することで、症状や副作用などを理解し確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活習慣を生かした役割やしみを取り入れホームでの生活に楽しみがもてるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節・学校の行事や地域の行事など外出時には声かけをし支援しています。家族との時間が合えば一緒に外出できるよう支援しています	買い物やドライブ等戸外に出かけるられるよう支援している。花見、紅葉、各種イベント(コンベックス、デパート、雛めぐり、こいのぼり etc.) 外出支援に職員が積極的に取り組まれています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	精算時には、本人がお金を店員に渡すことができるよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あらかじめ先方の方に連絡可能であることを確認し、本人が満足感を得られるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるものを飾ったり、写真を貼るなどをして居心地のいい空間作りに努めています	共用の空間は季節感のある飾りや花を生けてあり、温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間にはソファを設け、デッキにはゆっくりできる様椅子を配置し、どこにいても利用者同士が時間を共に過ごすことができる様支援しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に家族と相談しながら写真や馴染みのものを持参していただいたり、季節を感じながら過ごせるような工夫をしています	各居室にはご本人の好みのものを使いやすいように配置し、本人が居心地よく過ごせるような工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり必要なものを状態に合わせて取り入れ、変化があればその都度話し合いを行い対応しています。		